

## 小单元名 「情報産業とわたしたちの暮らし」

## 目標

我が国の情報産業の様子について、放送局の働きや放送局と国民生活とのかかわりについて調べることを通して、情報を発信する側に求められる役割と責任の大きさや、情報を受け取る側の正しい判断の必要性について理解し、情報化の進展は国民の生活に大きな影響を及ぼしていることや、情報産業から発信された情報の有効な活用が大切であることを考えるようにする。

## 評価規準

観点	評価規準	学習過程の どこで
社会的事象への関心・意欲・態度【関】	①災害報道の様子を通して、放送局と私たちの生活とのかかわりについて関心をもち、意欲的に調べている。 ②情報社会の発展に関心をもち、情報産業から発信された情報を有効に活用しようとしている。	つかむ ふかめる
社会的な思考・判断・表現【思】	①放送局の働きや私たちの生活とのかかわりについて、学習問題や予想、学習計画を考え表現している。 ②放送局の様子と国民生活とを関連付けて、情報化の進展は国民の生活に大きな影響を及ぼしていることや放送局から発信された情報の有効な活用が大切であることを考え適切に表現している。	つかむ まとめる
観察・資料活用の技能【技】	①資料を活用したり放送局の仕事に携わる方からの聞き取り調査をしたりして、放送局について必要な情報を集め、読み取っている。 ②調べたことを関連図にまとめている。	調べる まとめる
社会的事象についての知識・理解【知】	①様々な情報を早く正確に伝えるための放送局の仕組みや放送局の人々の工夫や努力を理解している。 ②放送局の働きは国民の生活に大きな影響を及ぼしていることや放送局から発信された情報の有効な活用が大切であることを理解している。	調べる 調べる

## 小单元について

本小单元では情報産業のうち、放送局を事例として取り上げる。放送局の様子として、「つかむ」段階及び「調べる」段階の前半では「災害報道に向けた放送局の取組」を扱う。

まず、「つかむ」段階では、阪神淡路大震災と東日本大震災の発生直後の放送の様子を比較することで学習問題を見出すとともに、「調べる」段階の前半では模擬緊急放送訓練などの様子から、情報を発信する側に求められる役割と責任の大きさについて理解させる。「調べる」段階の後半では「視聴地域と災害報道の関連性」を扱い、災害報道時のL字放送の様子を基に放送局から発信された情報が国民の生活に大きな影響を及ぼしていることについて捉えさせる。さらに「ふかめる」段階では「国際社会に向けた東日本大震災の報道の在り方」を扱う。放送局の国際放送の様子を基に、情報を受け取る側の正しい判断の必要性や、情報産業から発信された情報の有効な活用が大切であることを児童一人一人が考えられるようにするとともに、インターネットによる放送にも触れることで、次の小单元「情報ネットワーク」とのつながりも意識させる。

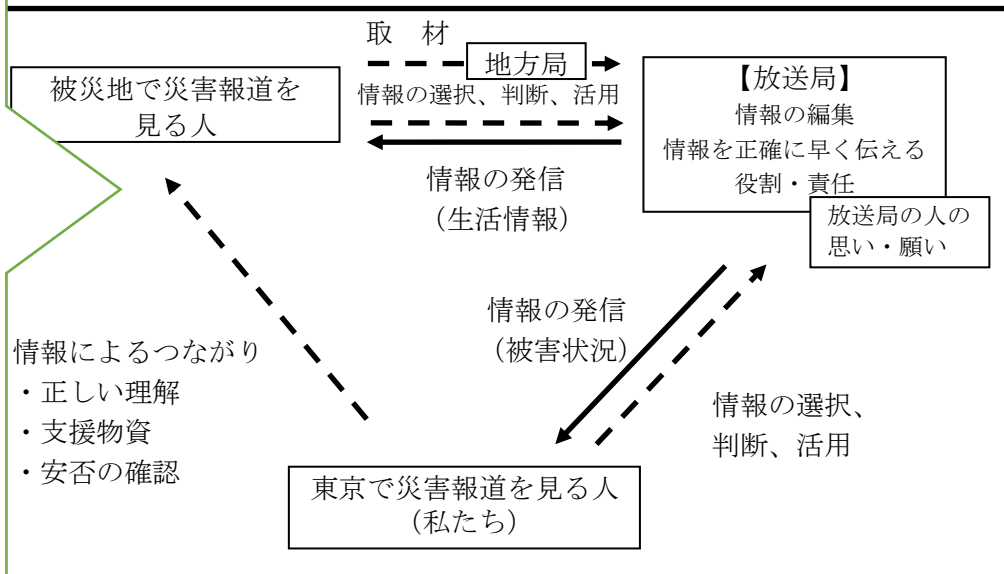
これらの社会的事象を関連付けながら学習することによって、「情報化の進展は国民の生活に大きな影響を及ぼしていることや情報の有効な活用が大切である」という社会的事象の意味を考えられるようにしていく。

## 指導計画

大単元の オリエンテーション	身のまわりの情報や、それを入手する様々な方法について調べる。
つかむ 1 (本時)	地震直後の放送局の災害報道の様子について調べ、学習問題を見出す。 <b>学習問題</b> 放送局の人たちは、どのようにして様々な地域から多くの情報を集め、早く分かりやすく私たちに送り届けられるようにしてきたのか。

	2	学習問題に対する予想を考え、学習計画を立てる。 〈予想〉・放送局の人が何か工夫や努力をしているのではないかな。 ・放送の仕組みが変わったのではないかな。
調べる	3	放送局ではどのようにして各地域から情報を集め放送しているのかを調べ、放送局の人々の工夫や努力を理解する。 【問1】（空間に着目した問い） 「東日本大震災では、どのように情報を集めて放送したのかな。」
	4	放送局ではどのようにして災害報道をすばやく放送しているのかを調べ、放送局の人々の工夫や努力を理解する。 【問2】（時間に着目した問い） 「緊急時でもすぐに放送できるように放送局はどのようなことをしてきたのかな。」
	5	東日本大震災で被災地と被災地以外に放送された情報にはどのような違いがあるのかな調べ、放送局の働きは国民の生活に大きな影響を及ぼしていることを理解する。 【問3】（相互関係に着目した問い） 「東日本大震災で、放送局は視聴者にどのような情報を伝えていたのかな。」
まとめる	6	調べたことを関連図にまとめ、学習問題に対して考えをもつ。 【問4】（相互関係に着目した問い） 「放送局と私たちはどのようにかかわっているのかな。」 〔期待される児童のまとめ〕 ----- 放送局では災害に関する情報を早く正確に伝えるために様々な工夫や努力を行っている。 私たちは必要な情報を選んで、生活に生かすことを大切にしないとイケない。
ふかめる	7	世界に向けた災害報道の様子について調べることを通して、放送局と人々のかかわりについて考える。 【問5】（時間・空間に着目した問い） 「震災直後、世界に向けて東日本大震災はどのように報道されていたのかな。」 【問6】（相互関係に着目した問い） 「私たちは情報をどのように使っていったらよいのかな。」

「まとめる」段階において、学習問題に対する自分の考えを表現していく際に、学んだことを整理するための関連図を書く活動を取り入れた。関連図は、「放送局の人たち」「被災者」「自分」などの立場を明確にし、それぞれの関係性を具体的に記述していくことで、放送局の様子と国民生活とを関連付けて、情報化の進展は国民の生活に大きな影響を及ぼしていることや放送局から発信された情報の有効な活用が大切であることを理解していく際に有効な手だてとなった。



本時の指導（1時間目／7時間）

(1) ねらい 地震直後の放送局の災害報道の様子について調べ、学習問題を見出す。

(2) 本時展開

過程	○学習活動 ・予想される児童の反応	教師の指導・支援 (□留意点 ◎資料 ◇評価)
導入	①地震が発生したとき、放送局がどのようにして情報を伝えているか話し合う。 ・地震が発生してすぐに情報を伝えている。 ・様々な地域の様子が画面に映し出されている。 ・アナウンサーの人の口調がいつもの様子とは違う。 ・画面にどんどん情報が出てきている。	□掲示物を基にオリエンテーションの内容を想起させる。 ◎11月22日の福島沖地震の災害報道の様子(動画) □自分たちが普段目にしている災害報道の様子を想起させる。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">                         大きな地震が起きた後のテレビはどんな放送をしてきたのだろう。                     </div>		
展開	②二つの震災の発生直後のテレビ放送の様子について調べる。 【阪神淡路大震災の画面】 ・地震発生から約45分たって、神戸の震度が決まっている。 ・被災地の映像が流れない。 ・画面に出ている情報が福島の地震よりも少ない。  【東日本大震災の画面】 ・揺れている最中からすでに放送が始まっている。 ・様々な地域の映像が映し出されている。 ・震度が決まった後も画面に次々と情報が出てきている。 ・アナウンサーが避難についての指示を出している。  ③二つの災害報道の様子から疑問を出し合い、学習問題を考える。 ・なぜ東日本大震災ではすぐに情報を伝えられたのだろう。 ・なぜ東日本大震災では地震発生直後から様々な地域の映像を伝えることができたのだろう。 ・阪神淡路大震災から東日本大震災までの16年間で、放送局で働く人はどんなことに取り組んできたのだろう。	□それぞれの震災の概要を伝える。 ◎日本地図 ◎阪神淡路大震災と東日本大震災の発生直後の災害報道の様子(動画) □時間、空間、相互関係の視点に沿って児童の意見を分類整理する。 ◇災害報道の様子を通して、放送局と私たちの生活とのかかわりについて関心を持ち、意欲的に調べている。【関・意・態】① (学習シート・発言)  □時間、空間、相互関係の視点に沿って児童の意見を分類整理し、学習問題へとつなげる。 ◇放送局と私たちとのかかわりについて、学習問題を考え表現している。【思・判・表】① (学習シート)
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">                         学習問題                          放送局の人たちは、どのようにして様々な地域から多くの情報を集め、早く分かりやすく私たちに送り届けられるようにしてきたのか。                     </div>		
まとめ	④本時のふり返しを書く。 ・普段何気なく見ていたテレビ放送にこんなに大きな変化があったなんて驚いた。 ・伝え方によって、見ている人が受ける印象も変わってしまうと感じた。	

平成 28 年 11 月 22 日の福島沖地震の災害報道の様子を見て気が付いたこと

※箇条書きで構いません、映像を見て気が付いたことをいくつか書いてみてください。

本時を行うにあたって意識をしたこと

### (1) 教材の分析

児童にどのような視点に沿って資料を読み取らせるか、意図をもって資料を選択しました。本時においては、「時間」「空間」「相互関係」の3つの社会的な見方・考え方に児童が着目できる資料を用意しました。

### (2) 板書の構造化

本時では、児童の発言を意図的に「時間」「空間」「相互関係」の3つに分類して板書を行いました。



その結果

- ・最初に、何に着目して資料を見たらよいかをはっきりさせたことにより、児童が資料から読み取る内容が拡散してしまうことを防げました。
- ・読み取る内容が絞り込めたことで児童の疑問も精選され、ねらいに沿った学習問題・学習計画をつくることができました。

社会的な見方・考え方をを用いて、何に着目して資料を読み取るのかを明確にすることで  
ねらいに即した活動を行うことができる。